



2020年度は、広島女学院同窓会発足100周年です。これを記念しグッズを準備いたしました。その一つが“日日のあやめ”と称する月も曜日もなく1から31の数字がページごとに書かれた聖句日めくりで、1月より販売開始となりました。



日めくりの製作に当たり関係者・同窓生の皆さんに多大なご協力をいただきました。表紙の学校の標語を書いてくださったのは高女52回野村久子さんです。サーロー節子さんが海外に行かれる時、女学院関連の原爆死没者の名前を書いた布を携帯されていますが、その布に350名のお名前を書かれたのが野村さんです。日めくりのページをめくると毎日あやめがでてきますが、そのあやめを描いてくださった高校19回古屋ルリさん。ボタニカルアート作品を同窓会グッズの便せんにも提供いただいております。校舎の写真を撮影・提供してくださった高校14回浜井洋子さん、バルチコフ先生の写真使用許可をお孫さんのドレイゴさんから取ってくださった高校60回新山京子さん（中国新聞）、明子さんのピアノの写真を提供して下さったHOPEプロジェクト代表、文英2回二口とみゑさん。中高事務室の玄関近くに“夏の終わり”という作品が飾ってあるので、ご存じの方も多いと思いますが、染色作家高校36回天谷理彩さん。写真選びに協力してくださった広島女学院歴史資料館の西原真理子さん。ご協力いただいた方々に感謝申し上げますとともに、多彩な先輩・後輩及び関係者に恵まれた女学院の幅の広さや奥深さを感じずにはられませんでした。

丁度1年前、まず31の心に残る、残ってほしい聖句を選ぶことから始めました。幅広い年代の方々から支持される聖句を選びたいと、当時の高校2年生にもアンケートをし、好きな聖句を募りました。アンケート結果については去る10月20日発行の同窓会報花あやめ10号“心の聖句Top7”で紹介のあった通りです。



好きな聖句とその理由を尋ねるアンケート用紙を高校 2 年の全生徒に配っていただきました。書きたくなければ提出は不要であることも伝えていただきました。

しかし、驚いたことに多くの生徒さんが書き込んで返却してくれました。またアンケート用紙に書かれたその字は丁寧で、どの用紙を見てもしばし時間を取って真摯に向き合ってくれたことが分かりました。また、なぜその聖句が好きですかという問いへの答えを読むと、無邪気な笑顔を見せてくれる少女たちが、苦しみや試練に遭遇し、最善を尽くして一生懸命に向き合う姿が浮かびます。

苦しいことがあっても立ち直れそうだから

悩んだ時も頑張ろうと思えるから

どんなに辛いことがあっても、そのすべてにきつと意味があったのだと思えるから

日々いろんなことで悩むけど、大切なのは生きているということなのだを教えてくれるから

その日の自分の苦労を認めてくれて、”お疲れ様、明日も頑張ろう”と言ってくれているようだから

心がいっぱいいっぱいでも苦しい時は、この聖句を思い出すと気が楽になるから

今日 1 日を全力で頑張った自分を褒めてあげられるから

自分を傲慢にならないように律してくれるから

アンケート回答のほんの一部をご紹介します。

学校にいるあやめ達は、時に取組む課題に圧倒されながらも健気に頑張っていました。よく頑張ったね、偉かったねと声を掛けたくなるほどです。

ご注文いただければ郵送も可能です。

寸法： 横 18 センチ X 縦 16 センチ

重さ： 126 g

価格： 1,000 円

一つ、お詫びと訂正をしなければなりません。

22 日のページ、“自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ。”



この聖句とともに Believe Myself という天谷さんの作品の掲載させていただきましたが、お名前に誤りがありました。

お詫びし訂正いたします。

(誤) 天谷 理沙

(正) 天谷 理彩

申し訳ありませんでした。

どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。(同窓会本部事務局 082-221-1059)